

平成26年度 第3回 府中市保健計画推進等協議会会議録

日 時：平成26年9月26日（金）

午後6時～8時

場 所：府中市保健センター分館3階研修室

- 出席者 委員：杉田 廣己（医療・府中市歯科医師会）
田中 勝彦（企業職域・むさし府中商工会議所、（有）柏屋取締役社長）
塚原 洋子（学識経験者・東京都小児保健協会理事）
藤原 佳典（学識経験者・地方独立行政法人 東京都健康長寿医療
センター研究所）
古山 一子（公募委員・市民）
安井 忠昭（公募委員・市民）

事務局：川田福祉保健部長

宮崎地域福祉推進課長補佐

石谷包括ケア担当主査（高齢者支援課）

横道健康推進課長

福田健康づくり担当副主幹兼係長

福嶋成人保健係長（健康推進課）

神田保健師（成人保健係）

奥保健師（成人保健係）

加藤栄養士（成人保健係）

コンサルタント：株式会社名豊 池上氏

※協議会設置要綱第6条の2項により委員9名中6名が出席しているため、本協議会は有効とされました。

■進行：福嶋成人保健係長（事務局）

- ・開会宣言
- ・配付資料の確認 ※配付資料は別添参照

■これより議事進行は会長となる。

【会長】次第のとおり進めていく

1 報告事項

(1) 「健康」に関する市民アンケート調査報告について ※資料1参照

【事務局】 本調査報告書は、平成17年度から26年度までを計画期間とする「健康ふちゅう21（府中市保健計画）」の策定にあたり、市民の健康に関する基礎資料を得ること、市民の声を反映することを目的として、平成16年、21、24、25年度に住民基本台帳より無作為に抽出した3,000名を対象として「府中市健康に関するアンケート」（以下市民アンケート）を実施し、まとめたものである。平成27年度から平成32年度を計画期間とする「第2次健康ふちゅう21（府中市第2次保健計画）」の策定に向けて、過去4回の市民アンケート結果を経年的に評価し、1次計画の最終評価を行うものとする。この中では、平成25年度の結果を基にまとめ、結果を経年的に比較できる設問については、4回分の調査結果を併記した。3ページ以降は調査結果についてまとめている。内容は第2次健康ふちゅう21素案第2章において一部結果を抜粋して記載した。また、85ページ以降は平成25年度に実施した市民アンケート調査結果を基に、今後、市として重点的に取り組んでいく必要がある「元気体重」「こころの健康」「定期的な健診受診」「ソーシャルキャピタル」の4項目に関する分析結果として、有意差検定結果を掲載した。

① 元気体重について（85ページ）

健康や生活習慣病予防のために栄養や運動などに関して気を遣っている人は、「元気体重」の内容について知っている人の割合が高かった。ふだんから体重のコントロールを心がけている人はBMIが「標準」である割合が高くなっていることが分かった。元気体重を維持していくためには、自身が体重コントロールを意識していくことが必要であると考えられる。

② 心の健康について（87ページ）

趣味等のサークル活動やボランティア活動に現在参加している人は、なんとなく疲れる、夜よく眠れない、イライラしているなど、心の不調に関する項目に当てはまることは特にないと回答している割合が高いことがわかった。また、地区活動に参加する人自体が少ないため、今後、市民が地区活動に参加しやすい体制づくりが必要であると考えられる。

③ 毎日生き生きと充実して暮らしている人と定期的な健診受診との関係について（89ページ）

毎日いきいきと充実して暮らしている等、自分自身の健康状態が良いと感じている人ほど定期的に健診を受診している割合が高いことが分かった。今後、定期健診の重要性の周知、受診しやすい体制づくりが必要であると考えられる。

④ ソーシャルキャピタルについて（91ページ）

ソーシャルキャピタルについて知っている人ほど地域とのつながりが「強い方だと思う」と「どちらかといえば強い方だと思う」の割合が高いことが分かった。今後心

身の健康保持増進のため、地区活動への参加について今まで以上に充実及び推進を図っていく必要があると考えられる。

【委員】 経年的に見ていく時に、年度の並べ方がバラバラなのは事務局側が意図的に行っているものなのか。また、がん検診の受診率を確認した時、府中市は都と比較すると全体的に受診率が低く、特に肺がん検診の受診率が低いデータの間違いというわけではないのか。あまりにも低い数値なので少し驚いた。

【委員】 年度の並べ替え（アレンジ）は今後調整する方向ということで検討していただきたい。がん検診、特に肺がん検診についてのデータは間違いではないのか。

【事務局】 この調査報告書は市民アンケート調査の中で取り扱った設問と、その結果報告をまとめたものであり、各事業の受診率や推移は含めていない。しかし、第1次計画を評価していくところでも事業の実施計画があり、がん検診の受診率等は経年で別途評価してきている。確かに、市のがん検診の受診率が低く課題になっており、**資料3** 14ページに評価等を含め取り扱っている。

【委員】 **資料3**を見るとやはり、肺がん検診の受診率が低いのがわかるが、事務局側で原因について何か把握しているのか。

【事務局】 肺がん検診受診を必要とされる年齢の人数と比較して定員が少なく、更に受診率も低いという結果となっている。素案の検討の中で、がん検診の受診環境の整備については今後も取組が必要と感じている。

【委員】 **問50**（80ページ）の文章に何べんも使用している「で」という助詞の使い方を見直した方がより市民に理解を得やすく、読みやすくなるので検討してもらえればと思う。

【委員】 今一度、文章を推敲していく必要がある。87ページ囲みの中で地区活動に参加する人は少ないという文言があるが、地域差があるのか、まんべんなくか、今後施策を展開する上で地域差があるようなら重点的に行う必要があるが何か情報があれば教えてもらいたい。

【事務局】 市民アンケートの結果から、趣味等のサークル活動をしている人の割合という観点を見ると、武蔵台文化センター圏域（市北西側、国立市境）の参加率が高い。また、NPO等の住民参加型組織の活動に関しては、押立文化センター圏域（市東南側、調布市境）が高い結果となった。設問の一部ではあるがこれを踏まえ、今後の取組の参考にしていきたい。その他、地域包括支援センター、担当エリアの高齢化率だけをみると新町エリア（市中心部、北側）、南町エリア（市南側、多摩市境）は高いという推移も捉えているのでいくつかを合わせた取組をしていきたいと考えている。

【委員】 **問5**（5ページ）に圏域ごと対象と回答率、参加度など地域性を調べると興味のあるデータが出るのではないかと思う。

【委員】 施策を実施する上で地域分析は必要となる。可能な限り地域特性等をコメントで入れるといいのではないかと思う。

【委員】 地域特性と関連したことでいうと、駅に近い文化センター（白糸台、片町、中央圏域）は利便性も高いと思う。

(2) 元気いっぱいサポーターアンケート再掲について ※資料2参照

第2回協議会で報告した元気いっぱいサポーターの取組に関するアンケートで男女別のデータについての質問について報告したい。

【事務局】 個別登録、団体登録合わせて208名の回答があった。(回答率31.2%)
男女それぞれの回答数を100%とし、割合を算出した。回答者男女比は1:3で女性の回答が多く、全ての年代において女性が多い結果となった。

問1 (1ページ) では、回答の順位は男女とも「自己の健康管理のため」と一緒だが、女性が10.6ポイント高く、男性は「ボランティア等社会貢献のため」「社会とつながりを持つため」がそれぞれ女性より3ポイント高かった。

問2 (2ページ) では、男女とも半数以上が「ある」と回答している。

問3は自由記載のため5ページに掲載した。コメントの後にある数字は同様のコメント数となる。健康づくりの取組では、男女別とも60歳以上で「仲間作り」「人との交流」等つながりを挙げる傾向がみられた。

問4 (2ページ) では、男女とも「健康増進室の健康プログラム」が一番多い回答となった。男性は「地域でのイベント参加」が女性より8.6ポイント高く、女性は「高齢者施設でのボランティア活動」が男性より6.1ポイント高い結果となった。また、女性は自由記載の中で「家族の世話(育児、介護)があるので、現在は活動できない」というコメントがあった。

問5 (3ページ) では、男女とも参加歴の有無は半々の回答となった。男性は「清掃活動」が多く、女性では「高齢者や障害者へのボランティア」が多く見られた。また、60歳以上で「成年後見制度レクチャー」や「山岳連盟での講師」等自身の経験を活かした活動を行っている人がいた。

問6 (3ページ) では、男性は「その他」が5.9ポイント高く、自由記載には「市に活動のコーディネーションをして欲しい」という意見があった。

問7 (4ページ) では、男性は「ともに活動する人材の紹介」が4ポイント高く、女性は「活動の場の提供」が4.1ポイント高い結果となった。
全体的に大きな男女差は見られなかったが、男性は地域での活動(清掃活動)が多く、サポーターになった目的も社会貢献や社会とのつながりを持つためという回答が多くあった。また、女性は高齢者に対するボランティア等、身近な人への支援に関する活動が多く、目的としては自身の健康管理が男性より10ポイント以上高い結果となった。

【委員】 問6、7で活動ができる場の提供があれば社会活動がもう少し活発になるという意見があるが、この場合の「場」とは集会場等の活動する空間としての「場」が足

りないという事だろうか。

【事務局】 そう理解している。

【委員】 半数以上の方が「場」の提供があればと答えているので、今後「場」を増やしていくという考えは市では考えているのか。ここが解決しない限り市民だけで「場」を確保するのは難しいのではないか。

【事務局】 他部署との調整になるが、地域の公会堂、文化センター等での使える「場」を検討していければと考えている。今後、元気いっぱいサポート事業を整えていき、使える「場」を整備し、宣伝していくことが必要であると考えている。その他に現在、健康推進課が管理する健康増進室（保健センター3階）で日常取り入れられる運動の講座を開いている。市民から大変好評を得ており、今後も引き続き行う予定である。

(3) 地域福祉計画進捗状況について

【事務局】 地域福祉計画、高齢者福祉計画、障害者福祉計画を現在並行して策定している状況であり、素案が固まり次第情報提供をさせていただきたい。また、10月下旬から11月のパブリックコメントを目指して作っているところである。内容は多岐に渡るので保健計画に係る部分を抜粋してお伝えする。

地域福祉計画では施策の中に介護予防推進があり、各ライフステージに対応した健康づくりを記載している。具体的には各種検診（健診）の受診促進、ライフステージに応じた健康づくりに対する啓発活動を進め、医療機関との連携強化を取り上げている。

支援ネットワークの推進ということでは地域活動に必要な担い手となる人材、支援を確保する場所の提供、地域の個人、団体、住民への情報交換や連携のネットワーク作り、保健計画でいう、ソーシャルキャピタルの醸成に関する部分も合わせ地域福祉計画の中に盛り込む方向で進めていく。

高齢者福祉分野では、対象者を要介護に至らない比較的健康度の高い元気な高齢者をターゲットとし、介護予防の充実、健康づくりの推進の2つを記載する。介護予防の充実としてロコモティブシンドローム対策などを含め普及啓発を進めていく。また、市では介護予防推進センターを拠点施設として設けており、それを活用した広報周知活動を行っている。介護予防の各種プログラムの実施や、修了者には地域で中心になって活動する介護サポーターの育成を定めている。

健康づくりとしては保健計画でも取り上げている元気いっぱいサポーター、健康相談の体制の整備、各種検診（健診）の受診の促進、病気の早期発見、更には認知症の早期発見等、国の介護保険制度の改正とからめて重点施策として入れているという状況である。

保健計画でも課題となっているが各事業に市民にいかに参加してもらうか、地域での取組をどう進めていくか等、施策の方向性で類似しているところがあるので各分野

連携して記載していく予定である。

【委員】 介護予防サポーターは地域の中でも関心が高い分野である。本計画で介護予防サポーターはどのような役割を担うのか。また、包括、社会福祉協議会、民生委員などの絡みの中でどう対応していくのか考えはあるのか。

【事務局】 具体的なサポーターの活動として、公民館等でサークルの中心となってもらうことを想定し、この動きを広げていき、市でも施策支援していく考えである。

【委員】 同じ人がいくつもの分野で活動していたりすることも考えられるが、どのような交通整理をしていくのか。また、福祉と保健の整合性ということだが、複合的な問題を抱えている人や、支えている家族に対して市ではどのように連携して解決していくのか。計画の中では何か触れているところはあるのか。また、イメージするものはあるのか。

【事務局】 実態としては同じ人がいくつも関わり、現在整理しているのも事実であるが、整理しすぎてしまうと、特定の人に負担がかかり広がりやを欠いてしまうところもあるので、役割分担をした上で介護予防をすすめていきたいと考えている。そのためには市の方向性を市民に理解してもらう必要があり、周知方法を計画の前半で重点的にすすめていく必要があると考えている。

複合的な問題については、健康管理だけに限らず、問題を抱えている場合の支援としては、地域に拠点を置き、国が管理している地域福祉コーディネーターが相談を受け原因分析し、必要な関係機関につなげていき、支援の進行管理をしていくという考えで地域福祉計画を中心に構想しているところであり、次期計画では重点施策として設置する予定である。

生活困窮者自立支援法の機能を拡張していき、進行管理する中で、健康維持、増進、介護者への支援の幅を広げていくという施策の方向で考えている。

【委員】 全てやるのは大変だと思うが「待ったなし」というところでもあるが頑張っ
て欲しい。

2 審議事項

第2次健康ふちゅう21素案について ※資料3参照

【事務局】 第2次健康ふちゅう21（素案） の説明。

本計画は、計画策定の概要、健康を取り巻く現状と第1次計画の評価と課題、第2次計画の基本的な考え方と取組の3章と、参考資料で構成している。現段階では全96ページの冊子となっている。

第1章（1ページから7ページ）は、計画の背景・目的として国、都の動向と市のこれまでの取組を、計画の基本理念、市の各種計画の中での位置づけ及び計画期間、計画の策定体制を述べている。

第2章（8ページから43ページ）は市の健康を取り巻く現状と課題と第1次計画

の評価と課題を述べている。

8ページから16ページには、市の人口や世帯等の状況、出生数、死因別死亡割合、高齢化率等の統計指標を記載している。

17ページから34ページには、市民の健康に関する基礎資料を得ることを目的に過去4回実施した市民アンケートより、経年的な結果の抜粋をしたものを記載した。

1次計画での取組で課題とされ、2次計画でも取り組む部分を主に抜粋した。

2次計画で重点的に取り組むところの健康に関する設問として18、19ページで、地区活動に参加している人とところの健康状況との関係、ストレスや悩みを持ったときの解消法について述べ、元気体重（標準体重）に関する設問として26、27ページに元気体重の認知度とBMIによる体型について述べ、元気いっぱいサポーターに関する設問として31、32ページに元気いっぱいサポーターに関する認知度と元気いっぱいサポーターへの登録意向について述べ、ソーシャルキャピタルの情勢に関連する設問として33、34ページにソーシャルキャピタルの認知度と地域のつながりの強さについて述べている。

35、36ページには、第1次計画後期計画の事業実施計画に基づく分野別取組と重点取組の平成25年度評価について記載した。この理由は、アンケートで市民の健康について経年評価していることと、事業は年度により開始、廃止という変更があるためである。事業実施計画の評価は各分野別取組の全ての該当事業をそれぞれの事業の達成状況により5点満点で採点した評価点と、その評価や現状の課題などから今後の取組の方向性として「重点化・拡大して継続するもの」をA、「現状のまま継続するもの」をB、「見直して継続するもの」をCとして評価した。

37から39ページは、分野別取組の評価について述べ、2次計画の重点取組と関連する部分として、(1)健康の自己管理 ア健（検）診などでは、がん検診受診率が都平均と比較して低い傾向があることから、今後のがん検診事業のあり方を市民アンケートでも検討した上で受診率の向上につながる事業実施に取り組む必要性があることを記載した。また、(4)ストレスでは、育児不安や自殺者の問題、不規則な睡眠習慣等の新たな社会問題が起きていることから、2次計画でところの取組を充実させる必要があることを記載している。

39ページ、(2)取組を地域に広げる(3)担い手を広げるでは1次計画で元気いっぱいサポーター事業に取り組んだが、活動を地域に広げる取組が不十分だった点を踏まえ2次計画ではソーシャルキャピタルの醸成を目標として、市民の自主的な取組やつながりを強化する事を目的とした事業として展開していくことが必要であること、市民を含む地域の複数の担い手がそれを担い推進していくことを記載している。

その他の分野別取組及び重点取組の各事業の評価は、ライフステージに応じた事業展開や情報発信等により健康的な生活習慣を習得し実践していくことが重要であることについて掲載した。

4 1 ページから 4 3 ページでは、市民アンケートによる市の健康をめぐる現状と第 1 次計画の評価を踏まえ、今後の取り組むべき健康課題を以下の 4 点で整理した。

- (1) 市民の年齢やライフステージにあった気軽な取組の展開
- (2) こころの健康づくり
- (3) ライフステージに応じた定期的な健（検）診の受診
- (4) ソーシャルキャピタル（協働）による健康づくり

1 章と 2 章の説明は以上となる。

【委員】 1 章、2 章についての質問、意見はあるか。

【委員】 素案と市民アンケート調査結果報告書の発表時期は最終評価の前ということなのか。

【事務局】 平成 2 7 年度 3 月に出す予定です。

【委員】 3 0 ページ以降の余白、特に 3 2、3 3 ページの余白が気になるが何か構成の考えはあるのか。

【事務局】 余白の部分は今後具体的な取組等を掲載できればと検討中である。

【委員】 引き続き第 3 章以降の説明をお願いします。

【事務局】 第 3 章（4 4 ページから 7 4 ページ）は基本目標を「自らの健康は自らがつくり守るまち府中」として、その考え方について述べている。

4 5 ページでは、基本目標の実現のために 4 つの基本方針を定め、それぞれの内容について説明している。

4 6 ページでは、本計画の体系図を示している。基本目標に基づく基本方針、具体的取組を一表にまとめた。基本方針 1 「健康意識を高める」は 6 つ、基本方針 2 「健康的な生活習慣を身につける」は 8 つ、基本方針 3 「健康管理を実践する」は 5 つ、基本方針 4 「ソーシャルキャピタルを醸成する」は 3 つの具体的な取組により構成されている。

4 8 ページ以降は、重点取組及びその他の具体的な取組についてまとめた。重点取組については現状と課題、望ましい姿、取組の方向性、市民が取り組むこと、市が取り組むこと、主な関連事業をそれぞれまとめた。その他の具体的な取組については現状と課題、市民が取り組むこと、市が取り組むこと、主な関連事業をそれぞれまとめた。

本計画の具体的な取組は現計画で重点的に取り組んできた内容で、引き続き取り組む必要のあるもののほか、「第二次健康日本 2 1」「第二次東京都健康推進プラン 2 1」等を参考にしてまとめた。特に健康危機に関することや睡眠、こころの健康といったトピックについては現計画での取組をさらに具体的重点的に進めていく必要があるものと考えられることから、個別の取組として取り上げている。また、ソーシャルキャピタルの位置づけについては孤立の少ない社会が心身の健康の維持、増進につながるという考え方を根底に置き、各取組の方向性に関連づけている。

48ページでは、ライフステージに応じた一次予防の取組についてを中心にまとめた。

こころの病気予防のためにストレスとうまく付き合うこと、人との関わりの中で相談しあえる関係づくりなどの重要性をうたい、地区活動などを通じた孤立しない地域づくりを目標としている。そのために元気いっぱいサポーターの活動を推進し、人と人とのつながりを深める取組や、元気いっぱいサポーター事業で得た健康情報を周囲に広げていくことの推進などを述べている。

50ページでは、自然災害や新たな感染症等に関する取組のほか、危険ドラッグを含む薬物乱用問題についても健康危機として取り上げた。主な内容としては、各種行動計画の策定や市の体制整備だけでなく、市民への十分な情報提供や危険発生時の住民同士のつながりがもてるような取組について、危機管理部門と連携して推進していく必要があると述べている。

52ページでは、現計画においても健康管理の指標として普及啓発を進めてきた元気体重という考え方を、引き続き広めていくことについて述べている。元気いっぱいサポーターを活用して元気体重の維持の取組の紹介を行うことや、紹介の場を通じて人と人がつながる仕組づくりを目指していく。

54ページでは健康管理に欠かせない健（検）診の受診環境の整備、精密検査受診の促進等をうたっているほか、市民自らが経年の受診スケジュールをたて、積極的に健康管理に取り組むことができるような仕組づくりを目指していくことを述べている。

56ページでは、社会全体における人と人がつながる仕組づくりについて、健康づくりという共通のツールを用いて、市が積極的に取り組んでいくことについて述べている。健康づくりに取り組む市民や団体を元気いっぱいサポーターとして認識し、その活動を支援してきたが、本計画ではさらにその活動を広げていく過程において周囲との関わりが深められていくことに重点をおいた支援の方向性にシフトしていく予定をしている。地域のつながりが強化されることが孤立を防ぐことになるという基本的な考え方をもとに事業を推進していきます。

58ページ以降は、具体的取組ひとつにつき1ページを割いてまとめた。取組ごとの主な関連事業については、計画策定の担当課である健康推進課だけでなく、庁内で実施される関連事業をそれぞれ掲載していますが、主な事業を選んでいる。

参考資料（75ページから96ページ）は本計画を策定するにあたり参照した各資料について、掲載しておくべきものを抜粋して載せる予定ですが、まだ精査しきれず、次回協議会で再度委員の皆様にご確認していただきたいと考えております。

巻末には用語集を掲載する予定です。本計画内の各用語の番号がふられているものについて詳しい説明文を載せる方向ですすめている。説明文についても現在精査中のため、今後ご確認いただく予定でおります。

なお、本計画の評価手法については、前計画と同様に事業実施計画を策定し、毎年

度評価していく予定です。しかし、これまでの事業実施計画は、指標・目標値の設定がなく客観的評価しにくいものであったため、今後は事業ごとに指標・目標値を設定し、各事業担当課による進捗管理・事業評価ができるようにしていく。来年度は前計画の最終評価と本計画の事業実施計画に対する指標・目標値の設定を同時進行で進めていくこととなる。

第3章以降の内容については以上となる。

今後の流れとして、後ほど説明するパブリックコメントを経て第4回目の協議会で素案を計画成案としてとりまとめる予定です。本日は本計画素案についてご審議いただく実質的な最終の場となるので、積極的なご意見をお願いします。

また、次回の協議会では本計画において、今後ソーシャルキャピタルの醸成に寄与する事業として取り組んでいく予定の、元気いっぱいサポート事業について制度の骨格を固めていきたいと考えているので以下のことについて委員の皆様から意見を聞きたい。

- ① 府中市のような規模の自治体の場合、市民とどのようにソーシャルキャピタルを醸成していくか
- ② 気軽にサポーターと使用できるコミュニケーションツールについて
- ③ 元気いっぱいサポート事業の評価のポイント
- ④ 元気いっぱいサポート事業を市民主体の活動にするための事業展開について

【委員】 第3章が本日のメインとなるが、意見、質問はあるか。

【委員】 52ページの年齢別運動習慣の状況で18、19歳の記載がない理由は何か特別な意味があるのか。

【事務局】 調査データはあり、記載も必要であるので確認し訂正します。

【委員】 第2次健康ふちゅう21は誰に配り、どのように市民に浸透させていくのか、また、第1次健康ふちゅう21は誰に配布したのか。前計画以上に練られ内容の精度が高まった冊子を、核となる人（元気いっぱいサポーターやソーシャルキャピタルのリーダー等）に最低限冊子が行き渡らなければいけないと思う。行き渡ることにより、市が考えていることの理解が高まり、行動が変わってくるのではないか。また、市が課題と挙げている元気いっぱいサポーターの草の根的広がりも生まれてくるのではないか。

【事務局】 今後、計画の本体とは別に概要版を作成する。市民が身近に見ることのできるものはイラストを入れ、チェック項目を書き込めるようなコアな部分だけをわかり易く掲載する方向で検討している。また、ホームページにも掲載する。計画の本体は1,500部予定している。（1次は2,000部）今、ご意見をいただいたことは、市民が自分たちの計画だと知ることが重要であるという主旨だと理解し、計画の本体は議会を通じて議員、主だった関係関連団体に送付するほかに、核となる地域の人に計画の本体が行き渡るよう検討したい。最終的には協議会の場でどのように配布する

かを報告させていただきたい。

【事務局】 現場の担当としては、今後重点的に取り組む元気いっぱいサポート事業の中で展開を図る中で普及、浸透させていくことについても計画的に取り組めればと考えている。

【委員】 サポーターにも啓発の一助になってもらおうといいですね。

【委員】 **4 重点取組（48ページから）**で市民が取り組むこと、市が取り組むことが記載されているが、それぞれ取組により書き方を統一するのは難しく思う。特に**重点取組2**（51ページ）は、具体的に示すのは難しいと思う。取組によって具体的に書ける場合と、抽象的にしか書けない場合があるが、市はどのように考えているのか。

現在、福島、岩手で健康危機管理に関わっているが、年単位で取組の方向性等の問題が変わり、災害を受けた所や、震災についてどのように学びながら考えたほうがいいのか、関連づけて考えるとどの辺まで書けばいいのか難しく、気になる。インターネット等で関連した情報をどのように取り自分たちが動けるようにするのか、防災計画では相当具体的にやると思うが、それぞれの項目でレベルが違うので難しいと思う。また、**重点取組5**（57ページ）ソーシャルキャピタルなどは抽象的にしか書けないと思うが、どのように書けばいいものなのか。

【委員】 作成時、何か統一のポリシーがあったのか。またその時のプロセスは何か。

【事務局】 府中市第6次総合計画が最上位計画だが、計画は市民と共同のものであると考え、市民にも意識をもって取り組んでもらいたいというメッセージを盛り込むことを計画していた。

取組により、内容の濃い薄いは統一すると厳しい部分もあり、ある程度差があってもよいと事務局側としては考えており、細かくできる部分、特に健康の危機の捉え方とこれから取り組むソーシャルキャピタルの醸成については記載の度合いが異なるが、ご了承いただきたいと考える。

【委員】 国や市町村は今まで健康医療、福祉、環境等を縦割りで行ってきたが、地域活性化のために、今後行動計画を練っていくと思う。一朝一夕にはできないと思う。計画は必ず見直しする時期があり、統一や修正する等して長い目でみていかないと難しいと思う。市、市民、事業所が同じ目線に立って色々な知恵を出し合い良い地域にしていこうと市長が言っているように、そういう点が一番核になっていくという意味ではないかと思う。

【委員】 ソーシャルキャピタルは表現しづらく、成功事例が少しずつできてくると、市民や関係者が育っていくものだと考える。書き方に違いがあっても仕方がないと思うが、分かりづらい部分は文章を補足、イメージ図を入れるとわかり易くなるのではないかと思う。

【委員】 冊子のはじめに、今までだと市が取り組むことが中心として書かれていたが、今後はどの計画においても市民と一緒に取り組むことが前提であるということを目で

見て分かるように付け加えたほうが良いと思う。

【事務局】 いろいろなご意見ありがとうございました。この計画の新たな姿勢が分かるような表現を記載するよう検討していきたい。

【委員】 障害を持つ人は隔離されているエリアから抜けきれないのが現状である。保護者は高齢になり介護も必要とする場合も多い。弱者にもう少し手が入るような手立てを考えてもらいたい。障害者の自立支援相談の窓口が少ない。介護保険の年齢になるまで医療的なケアがほとんど入ってこないのもう少し検討してもらいたい。

【事務局】 並行して障害者計画を策定しており、障害のある人が地域でいかに生活していくかというテーマがあり、高齢の親に頼るのではなく、地域でいかに支えられるかを計画に盛り込む方向で進めている。具体的には地域で連携するような仕組みを作るためにネットワークを整理していくことを次期計画では検討している。地域で第一次的に相談が受けられるように、障害者計画、地域福祉計画で検討している。併せてその役割を担うのが地域福祉コーディネーターであり、社会福祉協議会と協働し障害を持つ人を含め、顔つなぎをしていく。障害のある人にサポートできるような仕組みを整備していく方向で進めている。

【委員】 第2次健康ふちゅう21（5ページ）の位置づけの図が硬い印象があるので、住民全てが関係しているポピュレーションアプローチ的なものと、少しグレーなところと、ハイリスクな人や色々な人が地域の中において相互に関連しているという図があるといい。イメージが湧き易いようにソフトに作ると自分がどこにいるのかが分かり易いのではないかと思う。

【委員】 確かに、ビジュアルで見えたほうが市民に分かり易いので1ページ使ってもいいのかもしれない。

【事務局】 硬い図は残しつつ、プラスアルファ市民目線で分かり易いものを作れるよう検討していきたい。

【事務局】 概要版で掲載すると市民にPRでき、より理解してもらえるようになると思うので検討していきたい。

【委員】 元気いっぱいサポーターの団体とはどんな団体なのか。自治会とかは含まれているのか。

【事務局】 登録団体は市内企業や、体操サークルなどの健康クラブである。自治会はなかったと思う。

【委員】 サッカー、野球、ラグビーのスポーツ団体や、ボーイスカウトの野外の団体は入っていないのか。例えば、サッカーの試合を見に行けば自分も頑張ろうという気持ちになったり、体を鍛えてみようと思ったり、垣根を越えて交流することにより相互関係が得られるのではないか。

【事務局】 事業の反省点として、前回は元気をなんとか維持しましょうという取組として挙げ、元気な人にはあまり必要ではない事業だった。2次計画では、元気な人

が他の人も元気にしていただけるような事業として活用できるように取り組んでいきたい。

【委員】 市内に大学もある。若い力を借りると一層充実できるのかもしれない。

【委員】 ゆるキャラやワッペン等共通するツールを普及させると身につけている人同士の気持ちが芽生えると思うので目に見えるキャンペーンをいずれ行うのもいいのかもしれない。

今までのご指摘は事務局が提示した②、③、④に反映してくると思う。残りの①についてだが、ソーシャルキャピタルの中で信頼やネットワークの担い手の核となるのが元気いっぱいサポーターということになると思うが、コミュニケーションのツールとしてどうするのか、どのように推進されているのかといったところのモニタリングの視点はどうするか、府中市の規模でどう普及していくのか、市全体なのか、それとも地域レベルで戦略を変えるのかを残りの時間でお知恵をいただきたい。

【委員】 市民アンケートで関心が低いという結果がでているので、どのように関心を高め、地域で核となってくれる人を増やしていくかを考えていく必要があるかと思う。

【委員】 元気いっぱいサポーターの普及を今後していくと思うが、どこまで裾野を広げるかは、前回も意見が出たと思うが。

【委員】 ソーシャルキャピタルとしての入り方として意見した。

【委員】 事務局側としては最終的にどの程度の広がりを考えているのか。

【事務局】 サポーターの概念は主管課だけで市民に浸透していないのが1次計画での反省でもあるが、2次計画では、地道な活動と声かけによって少しずつでも浸透していくように努めていきたい。ソーシャルキャピタルという言葉について言えば、市民の認識がいま一步というところがあると思われるが、研究者としての知見から、どのように考えているか。

【委員】 地域包括ケア、高齢者支援の分野は、地域の連携なしでは成り立たないのでその重要性は浸透していると考えられる。国や都という現場から遠いところよりも、より市民に近い立場にある市町村レベルの方が推進されていると思う。

【委員】 11月に日本公衆衛生学会があるのでその情報も伝えていければと思う。

【事務局】 市民アンケートで今回は地域貢献をエリアでみる調査をし、圏域ごとの差が文化センターごとで見えてきたので市全体でというよりも出来るところから進めていく視点で考えていきたい。

【委員】 今後、普及するときに元気いっぱいサポーターの定義はある程度統一されたほうがいいと思う。核になる人ばかりになると裾野は広がらないので、段階に分けていくのも一つだし、市民に普及する前にサポーターの仕組みを練ったほうがいい。

他に、意見はあるか。事務局側は何かあるか。

【事務局】 次回協議会で、元気いっぱいサポート事業について経年計画や枠組み等を詰めていきたいと思うのでご意見をお願いしたい。

【事務局】 次回、協議会で再度（案）をご提示できればと思っております。

【委員】 審議は以上で終了する。

【事務局】 第2次健康ふちゅう21パブリックコメントについて ※参考資料4

広報と同じものとなる。実施期間は10月30日から11月29日までの1ヶ月間となる。この意見を踏まえ、構成し、最終案という提示をしていきたいと考えている。

【事務局】 次回は12月17日（水）午前10時から予定している。これにより、本日の協議会は終了とする。

（閉会）